

平成 25 年 8 月 30 日
内閣官房新型インフルエンザ等対策室

厚生労働省 国立感染症研究所リスクアセスメント更新（情報提供）

厚生労働省 国立感染症研究所は、本日（8月30日）、鳥インフルエンザ A（H7N9）感染事例に関するリスクアセスメントを更新しましたので情報提供いたします。

URL：<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu-a-h7n9/2276-a-h7n9-niid/3869-riskassess-130830.html>

【参考】鳥インフルエンザ A（H7N9）のリスクアセスメントの経緯

- 4月19日（金）発表 ○ 5月1日（水）更新
- 5月21日（火）更新 ○ 8月30日（金）更新（今回）

この度の更新は、感染者数の更新やこれまでに不明であったウイルスの特性等について、研究により新たに確認された知見が追加されました。

【事例の概要】

- 8月11日現在、中国及び台湾から135例の症例が報告されている。（WHOの発表）
- 5月21日以降しばらく発症はなかったが、7月に入って新たに2例の発症があった。

【リスクアセスメントと今後の対応（抄）】

- 中国からは7月27日発症の症例を最後に新規患者の報告がないが、引き続き中国における患者発生状況および国内への患者の流入の可能性を注視する必要がある。
- 鳥インフルエンザ A(H7N9) ウイルス感染症の病態については、軽症例が潜在している可能性も示唆されており、今後の中国における調査研究の進展に注意を払うべきである。
- 家禽が主な感染源であるというエビデンスがいくつか報告されているが、結論は得られていない。
- 現時点で、効率的なヒト-ヒト感染は確認できていないが、Anhui/1株が、フェレット伝播モデルにおいてある程度の飛沫感染伝播が起こることが確認され、またヒト型レセプターへの結合能およびヒト上気道の温度で効率よく増殖することが確認されたことから、本ウイルスが哺乳類への適応性を高めていることが示めされている。従って、残り数カ所の遺伝子変異が生じるとパンデミックを起こす可能性は否定できない。厚生労働省・感染研は適時のリスク評価にもとづいて、パンデミックへの対応強化を行っていく。

等